

第54回学習会を、平成26年9月19日(金)19:00~20:00福岡市教育センターにて行いましたので報告いたします。

## 第54回の内容

講師 重枝一郎先生

特設人権学習授業での実践

- 1 人権教育の目標
- 2 コーチングの手法を意識した指導方法の工夫
- 3 「体験」を取り入れて意味と感情と行動に働きかける指導方法の工夫
- 4 チーム効力感を高める指導方法の工夫

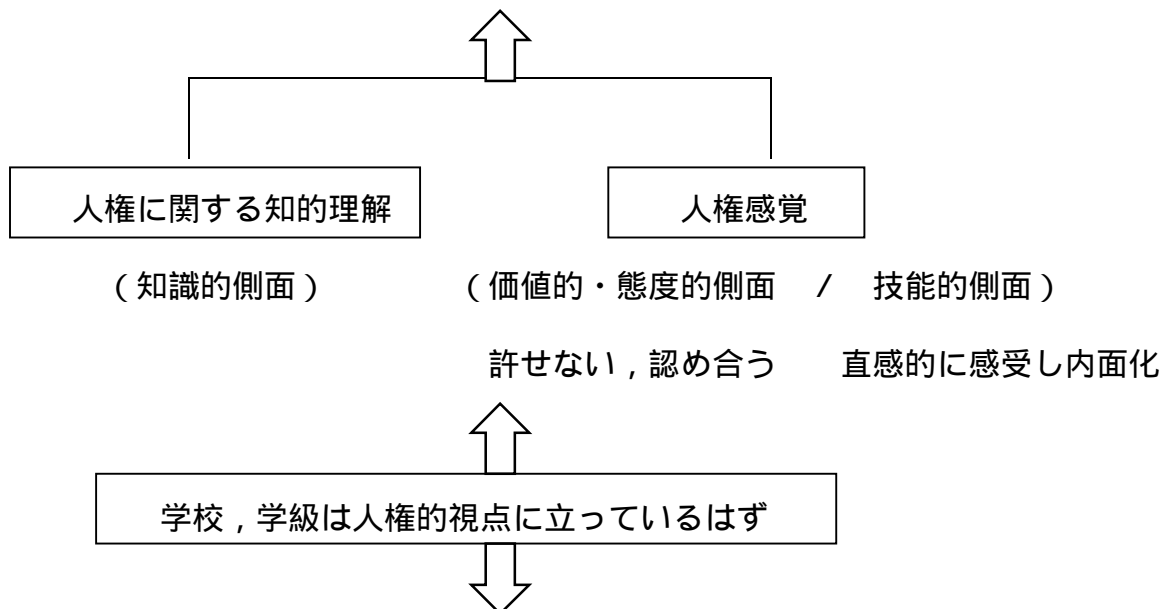


## 特設人権学習での実践

### 1 人権教育の目標

自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができる

(様々な場面においての具体的な言動とは)



### 2 コーチングの手法を意識した指導方法の工夫

- × 「学級目標はなぜ守られていないの？」
- × 「どうして勉強しないの？」  
詰問されている感じ, 攻撃性を感じる ごまかした回答
- × 「高校にいけると思うか？」  
ハイかイエエの閉ざされた質問, しかも・・・  
「ハイ」「バカ甘いんだよ」「イエエ」「わかっているならやれよバカ」

「学級目標が達成されていないのは何が原因なんだろ」  
「学級目標ってそもそも何だろう」  
「もし、・・・だったら何が起こる？」【演習】「もし、子どもが・・・」  
過去，今，これからを考えて本当の答えを見つけ出せる 気付き  
「宿題をスラスラ片付けるようになったでしょう。いったい何があったんだと思う？」  
「1年後の自分から今の自分にアドバイスするとしたら？」  
【演習】「1年後の自分へ」「1年後の友へ」



「なぜ」でなく「何」で質問

この生徒はできるはずと信じて話すことがコツ！そんなこの生徒の邪魔をしているのは何だろうと背景等に興味をもつのがコツ！

### 3 「体験」を取り入れて意味と感情と行動に働きかける指導方法の工夫

【演習】「ワードトーク」

【演習】「今学期の係活動」

感情に伴って行動が誘発されることを理解させる  
意味が伝わると行動が積極的になることを理解させる

### 4 チーム効力感を高める指導方法の工夫

たとえば，私の数学の授業・・・

チーム（班）にできそうな人，声をかけたりする人，疲れないようにする人がいたら高まりやすい

1時間に4問くらいを目安にして・・・

1 問目：一人でも取り組める問題（集中した状態，しゃべらない）

2 問目：ちょっと相談したい問題（集中した状態，しゃべらない）

友だちのノートを見たり，がんばる姿に刺激を受けたりするのはOK  
（モデリング学習）

3 問目：助けてもらいたい，チャレンジしたい問題（ちょっと興奮気味）

交流OK

4 問目：なんとかしたい，先生助けて（先生はチームの一員）

交流OK，宿題OK

振り返り：確認テスト，プラスの感情（安心，意欲）

適切な課題かどうかをいつも反省する。4問目の生徒の状態を見ると適切かどうかわかる。

1 問目，2 問目は自己効力感を高める。

自己効力感とは，目標に到達する能力に対する自分の感覚「やれそうだ」。小さな成功の積み重ねや心理的に身近なモデルの発見が高まるポイント。

3 問目，4 問目はチーム効力感を高める。

チーム効力感とは仲間と交流したときに「このメンバーならやれそうだ」という感覚。



自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができる（人権教育の目標）

## 5 その他

- ・「校内研修だより」
- ・今学期の係活動
- ・人権学習「ビーイング」

### 解 説

#### 教師の人権感覚

人権教育の指導方法等の在り方については、平成16年に「第一次とりまとめ」、平成18年に「第二次とりまとめ」、平成20年に「第三次とりまとめ」が、文部科学省「人権教育の指導方法等に関する調査研究会議」より公表されています。それは、最低限のこととして頭に入れておく必要があります。

さらに、コーチングの手法を意識することで、人権感覚のある教師になれるのではないかと思います。自分を自己点検する感覚で、コーチングを意識してみましょう。

また、教師は、子どもの表面だけではなく、背景を見ようとする意識が必要です。そうすれば、子ども理解が深まり、その子どもへの対応が適切になります。それが、子どもには、教師の人間性として感じられるのです。

#### 学校の教育活動全体を通じた人権教育

教師は、教科指導の場面においても、人権感覚や道徳を意識します。

人間関係のスタートは「信頼」です。信頼関係を育むベースには、「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができる」という人権教育の目標があります。それを、まず教師が意識して、子ども達が実感できるようにしていきます。

学校は「閉鎖空間」です。教室の中で、コソコソと人の悪口を言ったり言われたりするの、さらにストレスを増すことになり、安心・安全ではられません。毒を浴びているような状態です。だから、「心理的酸素」が必要なのです。この「心理的酸素」は何かを、子ども達から引き出していきます。

例えば、「あいさつ」「はげまし」「笑顔」「ありがとうという言葉」……。そうすることで、まわりへの配慮の気持ちが高まり、行動が変化していきます。このようにして、子どもに「概念」をもたせるのです。

#### 中学1年生を対象とした人権学習の実際

今回の風土会では、講師の重枝先生が実際に人権学習をしているビデオ鑑賞をしました。ある中学校での、1学年全員を対象とした、集会形式での授業です。

授業の流れは、次ページに示した通りです。書面で見ただけでは、イメージがわきにくいと思います。

「教師の支援」のキーワードを見ると、「ハリス・ボディリス」の話、「段階的成長」の話、「織物」の話、「毒を吐くな」の話、「維持ルールと向上ルール」の話、「コミュニケーション座標軸」の話・・・と書かれています。これらはすべて、今までの風土会で紹介してきたので、以前の会報にも書いています。ぜひ、会報を読んでみてください。

重枝先生は、それらの話を「持ちネタ」として、様々なことと関連づけて話をされます。説得力のある話です。それは、話す内容によるところもありますが、話し方や人間性から伝わることも大きいのです。実際に、子ども達に話しているビデオを見ると勉強になります。事務局に連絡してもらえば、ビデオを貸し出します。ビデオを見たい方は、連絡してください。

#### いい聴き方のポイント11

- ① うなずく
- ② 返事をする
- ③ 同意する
- ④ 質問する
- ⑤ 確認する
- ⑥ 相手の目を見る
- ⑦ 体を向ける
- ⑧ 関連付けて聴く
- ⑨ 先入感をもたない
- ⑩ 相手の立場に立って聴く
- ⑪ 最後まで聴く

〇〇班(メンバー )



本時の流れ

場 面	生徒の活動	教師の支援
インストラクション  (40分)	「話の聴き方」あごの位置，腰骨，返事等 「トラストフォール・アップ」をする。  整列，あいさつ  「もし，子どもが」グループワークし，横の 人間関係づくりを意識させる。 ・振り返り用紙記入  「ピーイング」についての説明を聴き，やり 方を理解する。	「ハーリス，ボディリス」の話 「信頼」がテーマであることを話す。相手意 識を強くもたせる。「段階的成長」の話 切れのある動き，あいさつ  「織物」の話 先の世界を示していく。 クラスや班にはルールやマナーが大切であ ることに気付せる。「毒を吐くな」の話  「ピーイング」をする過程での，自分の感情 に注目させる。 「個人シート」，「班の模造紙」，マジックを 班長に取りに来させる。(SST)
エクササイズ  (30分)	「個人のシート」に取り組む。  「班の模造紙」での交流活動をする。  完成したグループは振り返り用紙に記入す る。	様相を見ながら，多様な視点をもたせる。(普 段の会話，部活動，係活動，掃除，行事等の 場面を想起させる)  班での交流活動を注視し，交流活動のよい班 を紹介し，どこがよいのかを知らせる。
シェアリン グ [10分]	感想をグループで話し合う。班長が司会をす る。 話し合いが終わったら，班長が発表する。(数 班)	「班長の発表」は，時間が足りないので次時 にする。
まとめ  [5分]	まとめを聴く。 ・「ひとつの仕事をみんなで完成させる喜びが あったね。」 ・「学校生活の一瞬一瞬の場面で，今日のこ とが生かせるといいね。」 ・「コミュニケーション座標軸」	どの人もかけがえのない貴重な存在である ことを強調する。  「維持ルールと向上ルール」の話  「コミュニケーション座標軸」の話

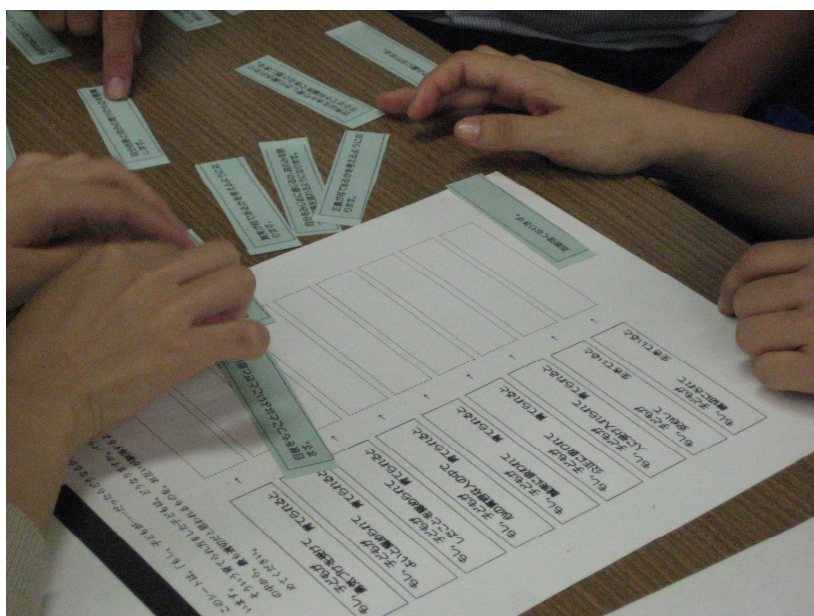
## 演習 「もし、子どもが・・・どうなる」

風土会から生まれた著書「Teacher's Teacher 2」の136ページに載せているコンセンサス実習です。この内容は、保護者や教師向けに書かれています。これを、小学生や中学生用に書き換えるとすれば、どんな言葉になるでしょう。

それを、募集したいと思います。思いついた方がいれば、風土会事務局まで連絡してください。

もとの文章を、下記に紹介します。

もし、子どもが、勇気づけを受けて育てられると	自信をもちます
もし、子どもが、よいと認められて育てられると	自分自身を好きになります
もし、子どもが、したことを認められて育てられると	目標をもつことはよいことだと思います
もし、子どもが、心の寛容な人の中で育てられると	忍耐強くなります
もし、子どもが、誠実にあつかわれて育てられると	真実が何であるかを考えるようになります
もし、子どもが、公正にあつかわれて育てられると	正義が何であるかを考えるようになります
もし、子どもが、人に受け入れられて育てられると	人を愛するようになります
もし、子どもが、安心して生きていると	自分自身と自分の周りのものを信頼します
もし、子どもが、親切にされて生きていると	世界は生きていたり、愛したり、愛されたりする、すてきな場所であると感じます
もし、子どもが、競争にあおられて育てられると	人と協力できなくなります
もし、子どもが、過保護に育てられると	自分の行動に責任をとらなくなります
もし、子どもが、甘やかされて育てられると	自分中心になりエゴイストになります
もし、子どもが、敵意に満ちた中で育てられると	けんかで問題を解決するようになります
もし、子どもが、子育てに一貫性をもたないで育てられると	人を信頼しなくなります
もし、子どもが、権威的な環境の中で育てられると	支配的になり、力に頼るようになるか、卑屈になり、力に屈服するようになります
もし、子どもが、批判ばかりを受けて育てられると	非難ばかりするようになります
もし、子どもが、冷やかしを受けて育てられると	はにかみ屋になります
もし、子どもが、ねたみを受けて育てられると	いつも悪いことをしているような気持ちになります
もし、子どもが、哀れみを受けて育てられると	自分をみじめに感じるか、哀れみを誘って、義務を逃れるようになります
もし、子どもが、高望みをされて育てられると	自分を無能だと思うようになります



## 本日のキーワード

人権教育の目標「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができる」  
生徒を信じて話す 背景を知る  
「体験」を取り入れて意味と感情と行動に働きかける  
チーム効力感を高める

### 学習会に参加された先生方の感想

(参加人数 33名)

- ・ コーチングの手法を知って、普段の自分の言葉選びを反省しました。月曜日から生かしていきます！
- ・ トヨタの本で、「なぜ？ぐせ」「何？ぐせ」というのがあり、コーチングのコツとつながっていると思いました。
- ・ コーチングを意識した指導は、なるほどと思いました。今までの「なぜ」を「何」にかえてみようと思います。
- ・ 子ども達と関わる際に、「何」で質問したり、その子どもの背景を考えたりすることは、すぐ実践できることなので、取り組みたいと思います。

(コーチングの手法を知っているのと知らないのとでは、教師の構えが違ってきます。教師が少し意識するだけで、効果が大きく違います。活用してください。)

- ・ 中学生くらいの年代は、横のつながりで自己効力感が上がるというお話に、納得させられました。
- ・ 人権学習というと、いつも構えてしまいましたが、身近なところにつなげて生徒に納得させるようにもっていければいいと思いました。今回、学んだ内容を、学校で広めたいと思います。
- ・ 人権学習というテーマを日常生活とどのようにつなげていくのかという視点で学ぶことができ、大変勉強になりました。チーム効力感を高める指導の話は、数学を例にしたものでしたが、保健体育にも活用できないものか・・・これから考えてみたいと思います。
- ・ 人権教育は、すべての教育活動で行われ、また、その重要性をひしひしと感ずることができました。今日、演習した「もし、子どもが・・・」などを中心に、学校で取り組んでいきたいと思います。
- ・ 人権教育の中で、授業や学級経営で活かせる内容が聞けたのでよかったです。今、私は、授業づくりがなかなかうまくいかないなあと感じています。それは、生徒が思う目標と私が考えている目標が違うこと、そして、生徒が「やれそうだ」という感覚がないから(実感していないから)だと思いました。
- ・ 人権教育が、今日学んだような切り口で行えることを知って、おどろきであり感心しました。考えてみれば、型にはまったものにとらわれすぎていたのかもしれないかもしれません。すべての教科につなげられるのが、人権学習だと感じました。

(教師の人権意識を高めることが、子どもの人権意識を高めることにつながります。日常が人権学習です！)

- ・ 風土会に本当に久しぶりに参加しました。今日、学んだ内容は、実はまさに、今、自分の学年で課題になっていることでした。どのように子ども達にアプローチしていけばよいのか悩んでいたのが、今日のお話を聞いて、久しぶりに様々なことを思い出すことができました。早速、取り組んでいこうと思います。
- ・ 今まで風土会で学んできた内容を、こんな風につなげて、こんな風に子ども達に話しているのだと、ビデオを見てよくわかりました。あのビデオがほしいです。毎回参加して、吸収したいです。

(風土会は、学びたい先生方に関かれた会です。いつでも参加してください！)